

「私自身ができそうな被災地の農業再生について」

溝口先生が東日本大震災の被災地における農地再生、農地除染に精力的に関わっていらっしゃるというお話を聞いたことで、東日本大震災から4年以上経った今、被災地に思いを馳せる機会がほぼなくなっていた自分を反省しました。しかし残念ながら、実際に被害を受けた訳ではない人にとっては、震災の記憶が風化しつつあるのも事実だと思います。そんな私が被災地の農業再生を考える上で、まずは被災地の農業の現状を調べてみました。

図表1 営農を再開できない理由（複数回答）

単位：%

	営農を再開できない理由（複数回答）						
	生活拠点が定まらない (原発事故の影響による場合を除く)	耕地や施設が使用 (耕作)できない (原発事故の影響による場合を除く)	農機具が確保できない	農業労働力が足りない	営農資金に不安がある	原発事故の影響	その他 (病気やケガ等)
3 県 計	9.3	21.9	11.2	1.9	8.3	80.4	0.2
岩 手 県	63.6	97.4	37.9	-	38.9	-	-
宮 城 県	37.7	95.5	52.3	7.2	38.2	-	1.2
福 島 県	2.9	7.5	3.6	1.1	2.4	96.2	-

(出所)「東日本大震災による農業経営体の被災・復旧状況（平成25年3月11日現在）」（平成25年4月農林水産省）

図表1から、営農を再開できない理由として大部分を占めるのが岩手県・宮城県では「耕地や施設が使用できない(原発事故の影響による場合を除く)」、福島県では「原発事故の影響」であることが分かります。そこで、この2つの大きな要因を解決するためにできることはないかを考えました。

まず1点目、「耕地や施設が使用できない」という要因。資金力も、人を動かす力もない一学生としてできることは限られています。まずは被災地の現状を知ることからだと思います。知った上で被災地に関するニュースにアンテナをはるようになれば、自然と情報も集まってくるでしょう。被災地での農業再生の取り組み、その取り組みを応援するボランティア活動、募金活動。そのような活動に協力することも、立派な被災地における農業再生の取り組みであると考えます。また近年ではTwitterやFacebookなどのSNSも発達しており、被災地における農業の現状について得た情報や考えたことを記事として投稿することもできます。その記事を見た人は被災地の現状を知ることができるし、何かアクションを起こそうという動きを生み出すことができるかもしれません。「結局は農家のやる気次第」というお話もありましたが、そのようなアクションが被災地の農家の方たちを勇気づけることにもなるでしょう。

次に2点目、「原発事故の影響」という要因。授業でもお話があったように農地の除染が追いついていないという現状がある上、営農を再開できたとしても根も葉もない風評被害を受けることも予想されます。そんな中で私ができることは、正しい情報を得て、被災地で生産された農作物に対して偏見を持たないことだと考えます。放射能の被害を受けた土地で生産された農作物も、きちんと除染された土地で生産されており安全性には問題ないこと等をきちんと理解し、被災地で生産された野菜を見つけたらむしろ積極的に購入する、くらいの姿勢でいこうと思います。被災地で生産された農作物を購入することで現地の農家に利益が還元できれば、震災前の状態に少しでも近づくためのお手伝いになるのではないのでしょうか。

以上、被災地の農業再生のために私にできることを考えました。自分にできることの小ささにがっかりしましたが、これからも考え続けたいと思います。